

1. 研究活動

<p>子どもの情報機器の取り組み方の変化IV</p>	<p>2013. 5. 11</p>	<p>日本保育学会第66回大会 中村学園大学</p>	<p>情報機器での音楽作りを試みることで、様々な音に気付かせ、音を音楽へと構成する要素や仕組みの面白さを感じることができる。本学附属クリエ幼稚園においてコンピュータ表現活動を始めて12年目を迎える。2009年度からは幼小の学びの連続性を踏まえ、小学校低学年に対象範囲を広げる。今までの研究から、小学校1・2年生は描画のテーマとメロディーを発展させることができるが音の面白さに気付かず独創性が足りない。幼稚園児は想像力があるがそれを音楽と言える作品にまで発展させることが難しい(星野, 2011)。今回は小学校3年生と幼稚園年長児の活動を援助学生の子どもの関わり方を含め、幅広い年齢の子どもの音楽教育を模索する。</p>
<p>小学校学童期の音楽教育の考察Ⅲ 一幼児と小学校中学年の情報機器を活用した表現活動を通して一</p>	<p>2014. 3 発行</p>	<p>名古屋芸術大学研究紀要第35巻</p>	<p>単に歌が上手に歌えるようになることや、楽器が上手に扱えるようになることだけではなく、子どもたちにとって最も興味があるであろう情報機器を活用して子どもの感性を伸ばし豊かな心を育むことができる。授業としての音楽は苦手であっても、情報機器は違う観点から音楽を楽しむことができると考える。情報機器が子どもの表現活動の一助になり得ると推測する。今回は愛知教育大学附属岡崎小学校3年生と更には4年生と名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園年長児の活動を行い、幅広い年齢の子どもの音楽教育を模索するとともに、情報機器を活用した表現活動の適当な開始年齢を考える。また、どのように本活動を幼児期から学童期につなげられるかを援助学生の子どもの関わり方を含め研究するものである。</p>
<p>「春を呼ぶ文化芸術フェスティバル」教員演奏</p>	<p>2014. 3. 1</p>	<p>名古屋芸術大学東キャンパス3号館音楽ホール</p>	<p>シューベルト作曲・即興曲作品142/D.935より第2番・第4番</p>

2. 教育活動(教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

<p>授業科目 子ども環境デザイン</p>	
<p>◆前期 <input type="checkbox"/>後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>チームティーチングを試み、学生の絵本の作成指導を松實輝彦准教授が担当し、その読み聞かせ時に使用する効果音やバックミュージックの作成指導を担当した。コンピュータ音楽ソフト Protocols 及び EXTRAM・FX を活用し、作詞作曲を学生自身の感性に基づいて指導し制作させた。</p>	

授業科目 音楽科指導法	
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
「春を呼ぶ芸術フェスティバル」で源田俊一郎編曲・「混声合唱のための唱歌メドレーふるさとの四季より故郷」及び、菅野よう子作曲「花は咲く」を履修学生に合唱を経験させ、小学校音楽科指導の実践指導への経験とさせた。	

### 3. 学会等および社会における主な活動

全国大学音楽教育学会	2002～現在に至る	会員
日本保育学会	1986～現在に至る	会員
日本音楽教育学会	2009～現在に至る	会員
全国保育士養成協議会	2008～現在に至る	中部ブロック会計監査
愛知県現任保育士研修運営協議会	2007～現在に至る	常任委員